

〈関連年表〉

	全国のできごと	周辺のできごと	周辺の遺跡・文化財
16,000年前	旧石器 ・氷河期、日本列島と大陸が陸続き	・人の生活の痕跡が見られるようになる	・鷺羽山遺跡（倉敷市）
2,800年前	縄文 ・土器づくりが始まる ・氷河期が終わり、暖くなる	・県南部の海沿いで貝塚がつくられる	・里木貝塚（倉敷市） ・津雲貝塚（笠岡市）
1,750年前	弥生 ・米づくりが始まる ・金属器が伝わる ・卑弥呼が魏に使いを送る（239）	・足守川流域で大規模な集落が営まれる ・足守川流域、真備地域で墳丘墓がつくられる	・酒津貝塚（倉敷市） ・上東遺跡（倉敷市） ・楠築墳丘墓（倉敷市） ・宮山墳丘墓（総社市）
1,300年前	古墳 ・前方後円墳がつくられはじめる ・倭の五王の時代 ・仏教が伝わる（538）	・吉備で巨大前方後円墳がつくられる ・八幡山周辺で古墳群がつくられる	・造山古墳（岡山市） ・作山古墳（総社市） ・天狗山古墳（倉敷市） ・二万大塚古墳（倉敷市）
1,200年前	奈良 ・平城京に都が移る（710） ・国分寺建立の詔（741） ・東大寺の大仏完成（752）	・小田川沿いに古代山陽道が整備される ・吉備真備が活躍する	・備中国分寺跡（総社市） ・備中国分尼寺跡（総社市）
800年前	平安 ・平安京に都が移る（794） ・院政の開始（1086） ・源平の争乱（1180～1185）	・酒津八幡神社創建（947） ・水島・藤戸合戦（1184）	・安養寺裏山経塚群（倉敷市）
700年前	鎌倉 ・源頼朝が征夷大将軍になる（1192） ・蒙古襲来（1274、1281）	・玉島で亀山焼がつくられ始める ・一遍上人が軽部宿を訪れる（1287）	・堂応寺宝篋印塔（倉敷市）
400年前	室町 ・足利尊氏が幕府を開く（1338） ・応仁の乱（1467～1477） ・本能寺の変（1582）	・備中高松城水攻め（1582） ・高梁川で高瀬舟を用いた水運が始まる（16世紀末）	・梁場山城跡（倉敷市） ・青江城跡（倉敷市） ・南山城跡（倉敷市）
150年前	江戸 ・徳川家康が幕府を開く（1603） ・大政奉還（1867）	・船穂・玉島間で「高瀬通し」が開通する（17世紀後半） ・鉄穴流しによる高梁川の水質汚染が問題となる	・一の口水門（倉敷市） ・岡田藩陣屋跡（倉敷市）
明治 現代	・明治天皇即位（1868） ・第一次世界大戦始まる（1914） ・第二次世界大戦始まる（1939）	・高梁川の河川改修工事が完了、現在の流れになる（1925）	・高梁川東西用水取配水施設（倉敷市）



※資料の転載・引用はご遠慮ください。

岡山県古代吉備文化財センター

〒701-0136 岡山市北区西花尻 1325-3

TEL 086-293-3211 FAX 086-293-0142

https://www.pref.okayama.jp/site/kodai/



令和6年度

酒津遺跡現地説明会資料

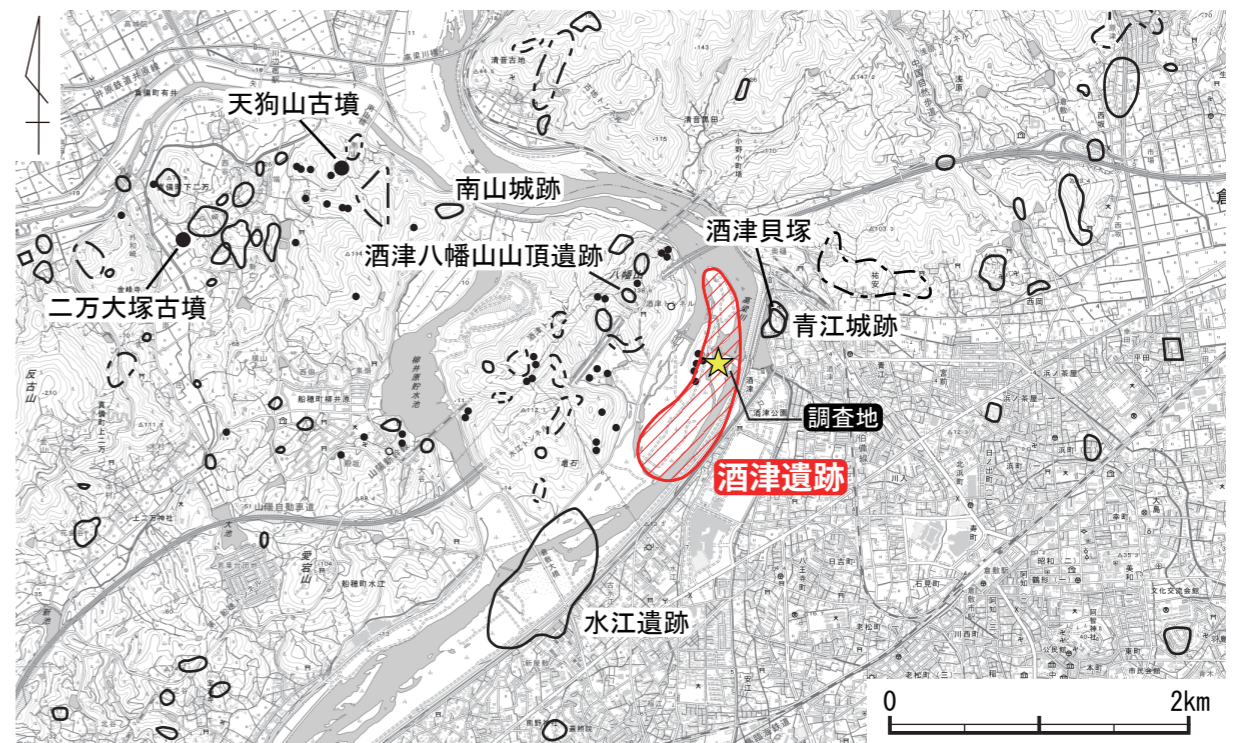
日程：令和6年12月14・15日（土・日）主催：岡山県古代吉備文化財センター
場所：倉敷市酒津地先 酒津遺跡発掘調査現場

岡山県古代吉備文化財センターでは、高梁川河川整備事業に伴い令和4年度から酒津遺跡の発掘調査を行っています。

酒津遺跡は、倉敷市街地の北西にある酒津八幡山の麓に位置します。かつての高梁川は、八幡山の北側で東西に分かれており、東高梁川と八幡山の間には本遺跡が立地していました。しかし、明治時代になると高梁川下流域で氾濫が多発したため、川の流れを1本にする改修工事が行われました。工事の結果、遺跡の大部分が河川敷となり、現在に至ります。

酒津遺跡は昭和30年に発見されて以来、川の底から多数の遺物が見つかることで広く知られるようになりました。中でも、弥生時代後期末の土器は「酒津式土器」と名付けられ、備中南部の同時期を代表する土器として学術的にも有名です。しかし、これまで本格的な発掘調査はほとんど行われてこなかったため、どのような遺跡なのかはまだ明らかになっていませんでした。

昨年度からは笠井堰の南に位置する中州の北側を調査しており、これまでに縄文時代から江戸時代にかけての遺構や遺物が見つかっています。



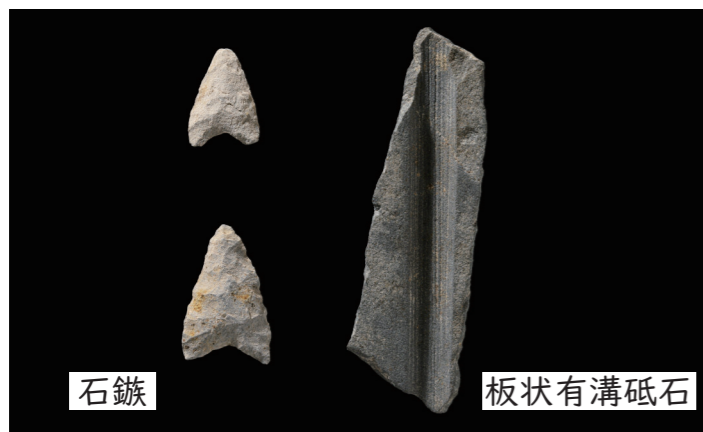
第1図 酒津遺跡と周辺の主な遺跡（1/50,000）（国土地理院電子地形図を加工）



①古墳 箱式石棺 (北西から撮影)

時期：古墳時代中期

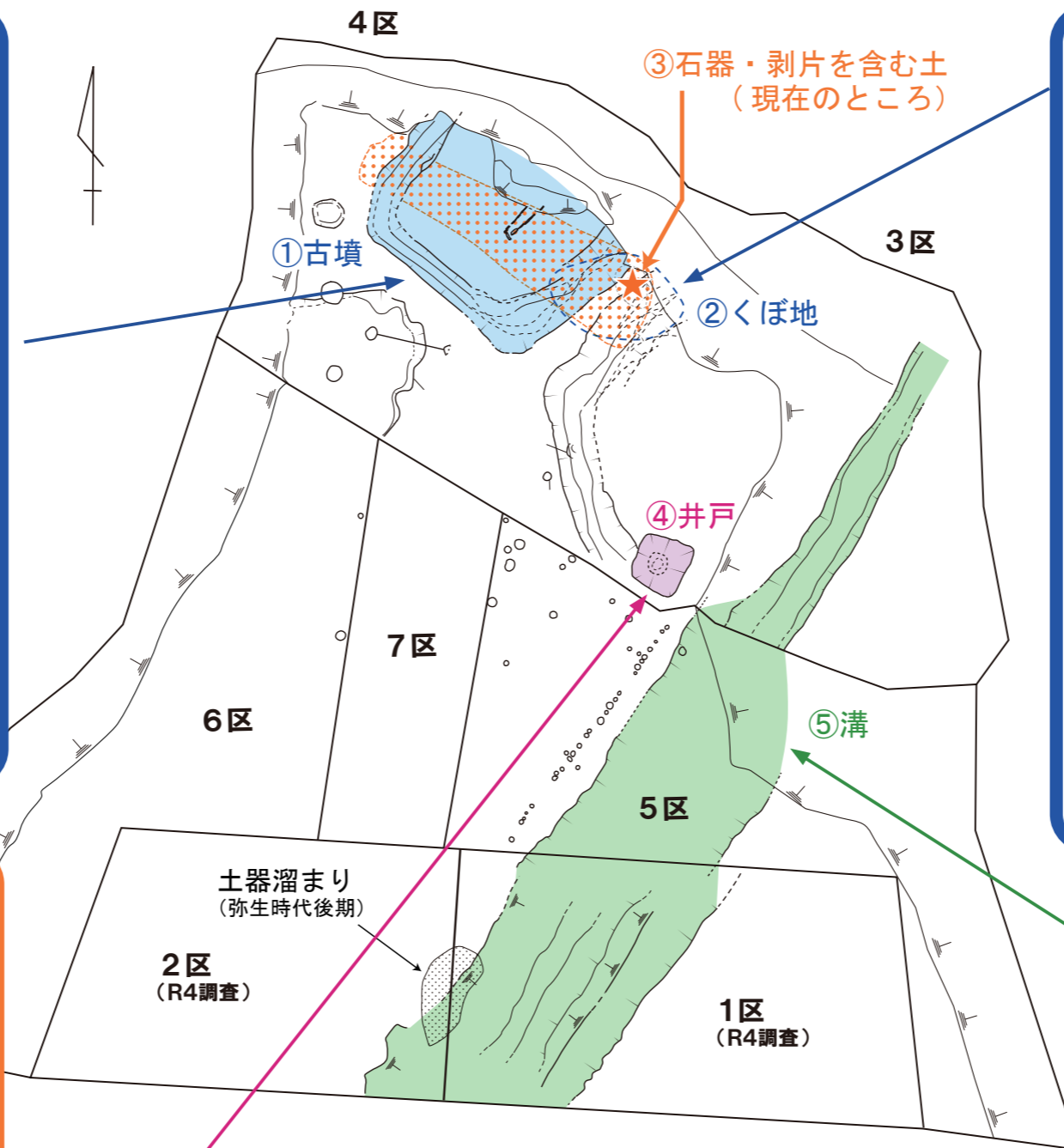
1辺約10mの方形の周溝をもつ古墳で、埋葬施設は板状の石を並べた箱式石棺です。棺の北東側は失われていたものの、中から被葬者の下半身を中心とする骨のほか、鉄製の大刀、鏃、鎌などの副葬品が見つかりました。



③石器や剥片を含む土

時期：縄文時代草創期

図の★の地点でサヌカイトとみられる剥片(石器づくりの廃棄物)がまとまって出土しました。この土は現状で西に15m程度広がっているようです。また周辺からは石鏃や草創期に特徴的な板状有溝砥石も見つかっています。



第2図 酒津遺跡の主な遺構 (1/300)

④井戸

時期：鎌倉時代以降

内側約1.2m×1m、深さ1.6mの方形の石組みの井戸です。上部の石は、使われなくなった後に土師質の椀や皿とともに井戸の中に投げ込まれていました。



(南西から撮影)



②くぼ地

時期：古墳時代後期

広い範囲が緩やかにくぼんでおり、炭を含んだ土が溜まっていました。東側では小さな河原石とともに製塩土器、須恵器、羽口、土錘、焼土、ガラス玉、鉄器、鉄滓、スッポンの骨といった多様な遺物が見つかり、この付近で鍛冶や製塩作業が行われた可能性が考えられます。

(北から撮影)



⑤溝

時期：奈良時代

3区から1区にかけて延びており、幅約7m、深さ約2m、長さ40m以上になります。溝の中からは、土師器、須恵器、瓦などが見つかりました。

(南西から撮影)